

川上委員 提出資料

第2回周産期医療と救急医療の確保と連携に関する懇談会

平成20年11月20日（木）

青梅市立総合病院における分娩と新生児医療の現状

産婦人科医：6～8名 小児科医：7～8名

1. 当院は周辺に総合的に周産期医療を行える病院が無いいため、可能な限りの分娩・新生児医療を行っている。
2. 年間 1000 例以上の分娩を扱い、その約 25%の出生児において小児科医が入院診療を行っている。
3. 医師数、看護師数ともに現状維持が精一杯の状態、将来的に NICU を運営するのは難しい。
4. DPC 導入により特に新生児医療で、医療を行えば行うほど出来高よりマイナスとなる現状がある。

分娩数

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
総分娩数	1082	1108	1118
正常分娩数	786 (73%)	833 (75%)	811 (73%)
緊急帝王切開数	92 (8%)	72 (6%)	52 (5%)
出生児体重			
～999g	3 (0.3%)	6 (0.5%)	0 (0.0%)
1000g～1499g	5 (0.5%)	6 (0.5%)	6 (0.5%)
1500g～2499g	116 (11%)	111 (10%)	140 (12%)
出生時妊娠週数			
22W～36W	91 (8%)	60 (5%)	93 (8%)
死産	1	1	1

分娩にかかわる未収金

	症例数	総額
平成 19 年度	47 例 (1118 例の 4%)	4,459,340 円
平成 20 年度 (4～9 月)	6 例 (538 例の 1%)	787,900 円

新生児室で小児科が入院診療を行った症例

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度
新生児・未熟児数	229	208	270
出生児体重			
～999g	2 (0.9%)	3 (1%)	1 (0.4%)
1000g～1499g	5 (2%)	6 (3%)	4 (1%)
1500g～1999g	20 (9%)	10 (5%)	24 (9%)
2000g～2499g	97 (42%)	98 (47%)	114 (42%)
2500g～	105 ((46%)	91 (44%)	127 (47%)
死亡	3	1	1

新生児室で小児科が入院診療を行った症例における DPC と出来高の比較

	平成 19 年度	平成 20 年度 (4～9 月)
症例数	250	128
在院日数 平均 (最短～最長)	12 (1～81)	12 (2～57)
DPC-出来高		
総点数	-300,152	-152,939
妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害 (140010xxxxxxxx)		
出生児体重	(症例数)	(症例数)
1000g～1499g (140010x39xxxxx)	-102,894 (5)	-37,282 (4)
1500g～2499g (140010x29xxxxx)	-42,768 (129)	-55,268 (70)
2500g～ (140010x19xxxxx)	-163,152 (109)	-63,008 (47)

新生児室で小児科医による入院治療を要した症例のDPCと出来高の比較

